

挑む!

多様な性伝える元保健室の先生

井上 鈴佳さん(27)

周りとの違い 苦しむ子を守る

「レズビアン」の元保健室の先生が性の多様性について出張授業をします。子どもたちや先生たちに知ってもらおうと、手製のチラシを携え、大阪府内の市町村教育委員会や学校を回る。今年、約20校で講師を務めた。

大学卒業後の3年間、府内の中高一貫校で養護教員をしていた。ある日、高校2年の男子生徒が保健室に来た。不登校きみで父親との関係が良くないという。何度か話すと、ぼろっと打ち明けられた。「男の人が好きなんだ」



大阪府大東市出身。府立四條畷高をへて、大阪教育大の養護教諭養成課程を卒業。中高は剣道、大学で合唱に打ち込んだ。

性同一性障害は大学で学んだが、同性愛に詳しくはなかった。この経験を機に勉強すると「もしかして私のこと？」。自身も同性愛者だと気づいた。

男性と結婚して子どもを産み育てる人生を疑ったことはなかった。だが学生時代、交際する男性との体の接触を避け、憧れの先輩女性と付き合う夢を見て混乱した。「同性を好きになる人もいる」ともっと早く教えてくれたら。その思いは「多くの子に伝えたい」という意欲へ変わった。

周りとの違いに苦しみ、自死する子もいる。知ることが命を救うことになる。保健室で待つより、一気に広めたいと退職。今の活動を始めた。

「子どもに笑ってほしい」。先生や保護者ならそう願うはず。そのための一つが、多様な性への理解だと思ふ。

文・写真 花房春子

記者から

6月には上海日本人学校で講師を務めた。どこへでも行き、誰にでも売り込む度胸があります。